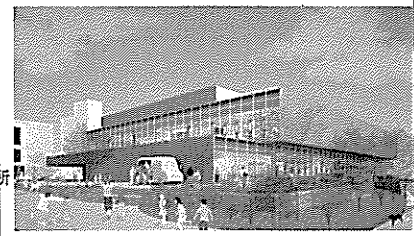


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_V1.22

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)舞鶴市立中央図書館新築工	階数	地上2F
建設地	京都府舞鶴市字南田辺131-73の一	構造	S造
用途地域	第2種住居地域	平均居住人員	1,200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,300 時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年4月 予定	評価の実施日	2026年1月27日
敷地面積	9,419 m ²	作成者	株式会社 遠藤克彦建築研究所
建築面積	2,267 m ²	確認日	202●年●月●日
延床面積	3,676 m ²	確認者	〇〇〇



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★ C: ★

2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 67%

③上記+②以外の 67%

④上記+ 67%

(kg-CO₂eq/年・m²)

このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたWLC排出量の目安で示したものです。④は参考として運用分をBEE+で表示しています。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.3

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.3

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>ZEB Ready 取得数値を目指し、最大限環境配慮を行う計画。</p>		<p>その他</p> <p>0</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>可能な限り自然エネルギーを活用した計画。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>職員・来館者双方に対する福利厚生の充実。新中央図書館としての維持管理、耐用年数その考慮。共用部(多目的な利用が可能)を充実させ、誰もが自由に使える空間として計画。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>外構計画を活かした屋外空間の計画および屋根下空間の確保。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>熱負荷が最もかかる屋根面の断熱性能の確保と、熱負荷を抑えた的確な開口部の計画。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>地域産木材の有効利用。有害物質の排出のない素材の利用。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>室外機、設備機器は屋上へ設置する。</p>

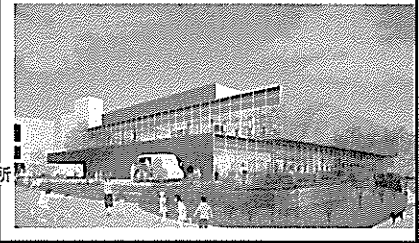
■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
 ■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)舞鶴市立中央図書館新築工	階数	地上2F
建設地	京都府舞鶴市字南田辺131-73の	構造	S造
用途地域	第2種住居地域	平均居住人員	1,200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,300 時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年4月 予定	評価の実施日	2026年1月27日
敷地面積	9,419 m ²	作成者	株式会社 遠藤克彦建築研究所
建築面積	2,267 m ²	確認日	2026年●月●日
延床面積	3,676 m ²	確認者	〇〇〇



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価結果(レダチャート)
<p>BEE = 1.3</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★</p>	<p>30% ★★★★★ 60% ★★★★★ 80% ★★★★★ 100% ★★★★★ 100%超: ★</p> <p>標準計算: ①参照値 100%, ②建築物の取組み 67%, ③上記+以外の 67%, ④上記+ 67%</p> <p>(kg-CO₂e/年・m²)</p>	<p>3(保健) N/A 4(教育) N/A 5(シニア) N/A 6(水・衛生) N/A 7(エネルギー) N/A 8(経済・雇用) N/A 9(イノベーション) N/A 11(都市) N/A 12(生産・消費) N/A 13(気候変動) N/A 15(陸上資源) N/A 17(実施手段) N/A</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.3</p> <p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.3</p> <p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.3</p>		

LR 環境負荷低減性		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.1</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.3</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.2</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>ZEB Ready 取得数値を目指し、最大限環境配慮を行う計画。</p>		<p>その他</p> <p>0</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>可能な限り自然エネルギーを活用した計画。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>職員・来館者双方に対する福利厚生の充実。新中央図書館としての維持管理、耐用年数をの考慮。共用部(多目的な利用が可能)を充実させ、誰もが自由に使える空間として計画。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>外構計画を活かした屋外空間の計画および屋根下空間の確保。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>熱負荷が最もかかる屋根面の断熱性能の確保と、熱負荷を抑えた的確な開口部の計画。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>地域産木材の有効利用。有害物質の排出のない素材の利用。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>室外機、設備機器は屋上へ設置する。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
 ■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される